

御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」
 教区御遠忌テーマ「あなたは、与えられたいのちとどう向き合う？」

教化本部通信

【第53回】

真宗門徒の生活 朝夕におつとめをしましょう・声にだしてお念仏を申しましょう
 を回復しよう すずんでお寺の法座に身を運びましょう・報恩講を大切にお迎えしましょう

しんらんweb 検索

真宗同朋会運動50年に向けて

その検証 歩み(二)

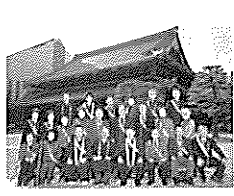
真宗同朋会運動の発足 (3)

教化本部 古卿 誠幸

初期の同朋会運動の課題の一つとして、「新宗教」(新興宗教)の急激な台頭という問題があった。しかし、この問題は、同朋会運動が始まる以前からすでに指摘されていたことである。

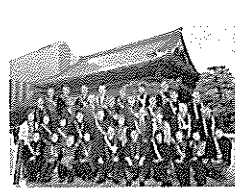
日本において「新宗教」は江戸時代後期以降に、伝統的な宗教を背景に形成され、第二次大戦後、宗教法人として認可されるとともに急激にその勢力を拡大してきた。

一方教団は、戦争協力という大きな責任問題をかかえ、さらに、戦争という波に埋没してしまった結果、それまで寺で行ってきた真宗の伝統的宗教行事は縮小または、休止、廃止されていった。それまで地域生活と密着していた関係がうすれ、さらに人々の意識の



第11組 後期教習
 参加できたおかげで新しい御影堂にお参りでき、又「人とのつながりの大切さ」を教えられました。

20名



第6組 後期教習
 生活を通して真宗の教えを講義いただき、今まで気が付かなかった我が身を教えられました。

31名



第12組
 初めて御真影を拝見し、感動、おもわず手が合わさりました。個々に上山出来て良かったと話してました。

30名



▼一日参拝 12月▲
 お待ち受け総上山

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

中に既成教団に対する不信感や無関心がうまれた。その流れが現代の風潮となり、さらにその風潮は「新新宗教」という形で高まりつつあるのではないだろうかと推測される。

同朋会運動発足当時は、創価学会の「運動」が全国的に行われ、真宗門徒の転宗が次々に起っていた。そのような精神的な活動に対して「いづれの寺も最近、創価学会の進出に相当動揺している」ということが認められ、それに比して寺の教化事業が月一回、あるいは二カ月に一回という手薄な現状から報告書(特別伝道終了後にまとめられたもの)は「寺と門徒はどこで触れ合う接点をもっているのか」という点を指摘している。

さらに「昔のように戸籍の仕事、公民館的な仕事、寺子屋の仕事などで大衆と結びつくことが出来なくなっている現代においては、寺は社会事業の仕事も失ってしまっ

た」(1962年9月26日付『中外日報』)と報じている。

このような指摘は同朋会運動が始まる以前から安田理深先生が次

のようにされている。

「寺院が、例えば信仰だけの問題をそこでとりあつかうというのではなくて、人間のもっているあらゆる問題を媒介にして、信仰を明らかにする場所となる。そういうところ」に教団の意味があると思

う。今は何でも話しあえる場所がないのではないか。(中略)戦後特に、公民館が沢山できたが、これは或る意味では寺院の解体である。公民館の仕事はもと、寺院が行ってきた。あのことが啓蒙的といえる。結婚の問題も、経済

の問題も、教育の問題も、あらゆる人生問題がそこで相談できるひろい場所、ここに見える教団の仕事がある」(座談会「見える教団 見えるる教団」、『真人』第113号)

戦後の高度経済成長にともない、人口が都市圏に集中し、農村や地方の地域共同体は崩壊していき、都市部では核家族化が進み、共同体意識の薄い地域社会として家族間の関係が弱い集団となっていた。「新宗教」はこのような個人に対し、勢力を広げていった。

「新宗教」について「既成宗教の影響を受け、その教理を自己流に改変し、一定の体系化をはかり、さらに近代科学の成果や技術を都合の良いように導入して合理化を試みている組織的教団もあるが、世俗的な現世利益を看板にして、宗教的純粋性や合理性とははるかに遠い教理で活動をおこなっている教団が多い」(大西憲明「信仰の心理」『教化研究72』所収)としている。

「現世利益的」宗教であると言われている。

真宗同朋会運動を提唱した訓勸信雄氏は「創価学会の折伏がなかったら、こんな信仰運動は始められなかったのではないか」(『訓勸信雄論集』第2巻)と語ったという。

「新宗教」の台頭という歴然とした事実によつてはじめて、寺(住職)も門徒も強い危機感を持ち、寺という開法の本場の解放された「ほんとうの寺」として回復し、「全生活をあげて本願念仏の正信に立つ」一人ひとりが自覚者となる、真宗同朋会の「純粹なる信仰運動」の歩みとなった。

影響を受け、その教理を自己流に改変し、一定の体系化をはかり、さらに近代科学の成果や技術を都合の良いように導入して合理化を試みている組織的教団もあるが、世俗的な現世利益を看板にして、宗教的純粋性や合理性とははるかに遠い教理で活動をおこなっている教団が多い」(大西憲明「信仰の心理」『教化研究72』所収)としている。



第16組 正行寺
 帰敬式を受けた14人と後方で見守った9人が共に感動し、目に涙をためていました。

23名



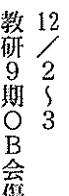
第17組 幸福寺
 真宗本廟でお話を聞き、じっくり考えることが出来ました。御遠忌にも是非参拝したいです。

14名



第18組 幸福寺
 教研9期OB会(傷痍の会)結成10周年記念上山。同朋会館で出会った楠先生ご夫妻と記念写真。

8名



第19組 幸福寺
 教研9期OB会(傷痍の会)結成10周年記念上山。同朋会館で出会った楠先生ご夫妻と記念写真。

8名